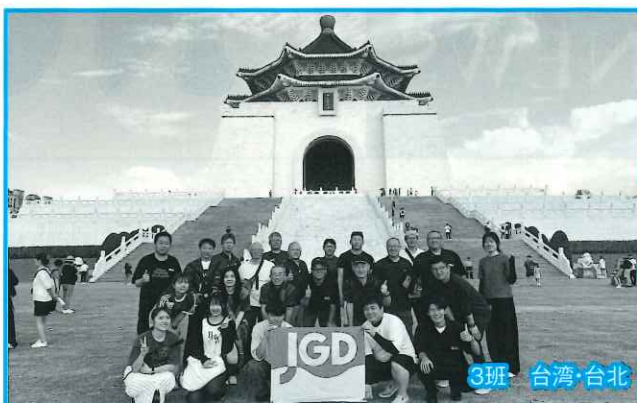




4月～6月にかけて社員研修旅行が行われました。
今年は国内外6班に分かれて研修を行ない、各地域の歴史・文化・食などに触れ、多くの見聞を広めることができました。

入社式

総務本部 総務部 長 岡 夏 輝

4月1日(火)、「令和7年度入社式」が行われ、10名の新入社員を迎えました。

式典は厳かに行われ、新入社員たちはやや緊張した面持ちを見せながらも、新たな門出への期待と覚悟を感じさせてくれました。

桂木社長からの式辞では、新入社員へ向けた歓迎の言葉とともに、「心がけてほしいこと」、「して欲しくな

いこと」、「安全は全てに優先する」等のお話がありました。

それぞれが自身の能力をいかに発揮して活躍してくださることを期待します。

令和7年度も、皆で力をあわせて前に進んでいきましょう。



令和7年度入社式 R7. 4. 1

環会、25回目の地域支援 ー モンテディオ山形ホームゲームチケット寄贈の歩み

環会事務局 土 屋 仁

4月3日(木)、環会は、5月3日(土)に天童市・NDソフトスタジアム山形で開催されるサッカーJ2リーグ「モンテディオ山形 対 北海道コンサドーレ札幌戦」の観戦チケット300枚を、山形県社会福祉協議会へ寄贈いたしました。

当日は、環会の佐藤武幸会長とJGDの桂木宣均会長が山形県社会福祉協議会を訪問し、県社協の玉木康雄会長へ目録とチケットを直接お渡しいたしました。

このチケット寄贈活動は1998年に始まり、2020年からの新型コロナウイルスによる中断期間を挟みながらも、今年で通算25回目の節目を迎えました。これまでに贈呈したチケットの累計は13,500枚を超え、四半世紀にわたり地域と子どもたちを繋ぐ取り組みとして続けてまいりました。

今回のチケットは、山形県内の障害者支援施設、特別支援学校、学童保育施設などを通じて、児童生徒と

その保護者へ配布されました。観戦されるお子さんの多くは、身体的・発達の理由により介助が必要な場合があり、保護者や支援者の同伴が欠かせません。こうした背景から、寄贈したチケットは児童生徒に加え、同行される保護者の方々にもお渡ししています。

試合当日となった5月3日(土)は晴天にも恵まれ、12,567人の観客がスタジアムに集まりました。スタンドはモンテブルー一色に染まり、応援の熱気に包まれました。モンテディオ山形は果敢に攻め込みましたが、惜しくも0-1で敗れる結果となりました。それでも、多くの子どもたちにとっては、臨場感あふれるプロの試合を間近で観戦できる、かけがえのない体験となったようです。

後日、観戦された施設や学校から、たくさんの温かなお礼の手紙をいただきました。その一部をご紹介します。



目録とチケット寄贈の様子 R7.4.3



5月3日(土)に行われたモンテディオ山形 対 北海道コンサドーレ札幌戦

「子どもたちが大興奮でした。迫力ある試合を目の前で観られて、とても良い経験になりました。」

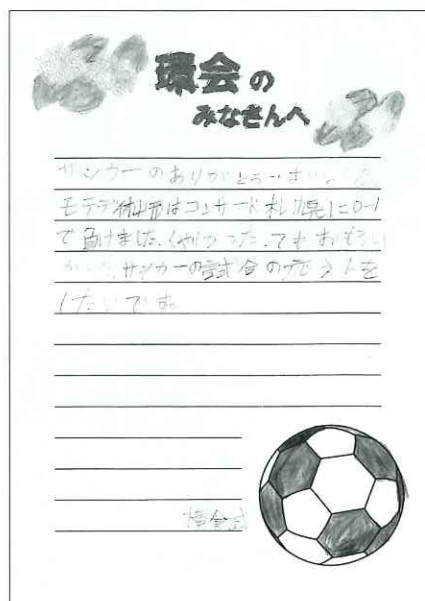
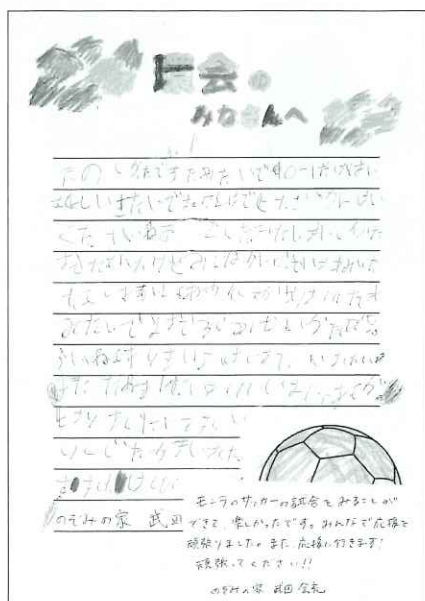
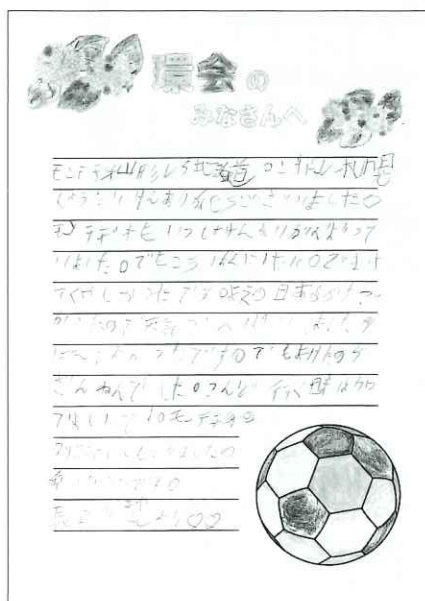
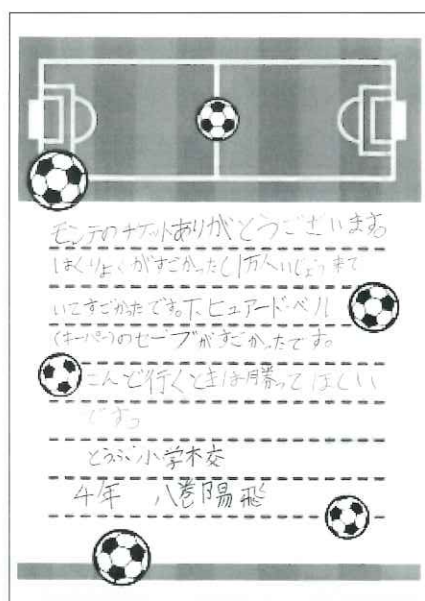
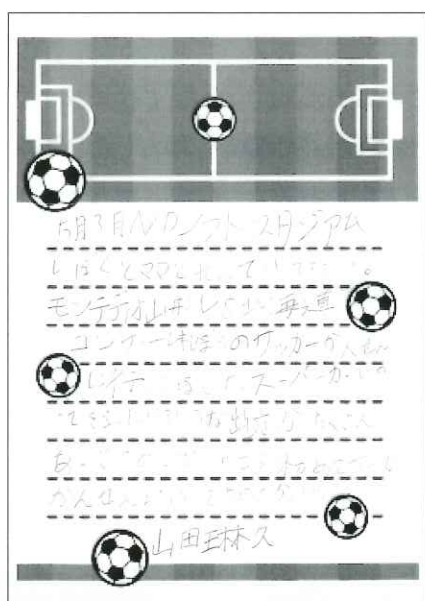
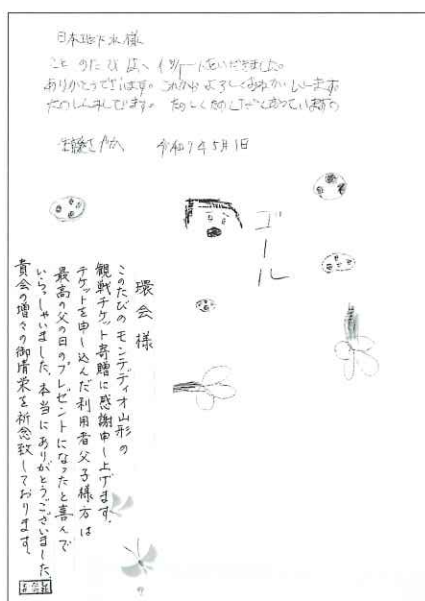
「応援がすごく盛り上がっていて楽しかったです。また行きたいと言っています。」

「初めてのスタジアム観戦で、子どもたちの目がキラキラしていました。」

このような声の一つ一つが、私たちの活動の大きな励みとなっております。

この取り組みを長年続けることができたのは、環会会員企業の皆様の深いご理解と継続的なご支援、そして山形県社会福祉協議会の皆様のご協力があったからこそです。心より感謝申し上げます。

今後も環会は、地域社会への貢献と、子どもたちの笑顔につながる活動を大切に、継続して取り組んでまいります。



【2025 APWA North American Snow Conference】を視察して

秋田営業所 伊 藤 博

4月4日(金)～4月12日(土)の9日間、アメリカミシガン州グランドラピッツで開催された「2025 APWA North American Snow Conference」に、桂木会長、工事部の佐藤次長、福島営業所の東海林所長に同行し、参加いたしました。

展示会場では最新の除雪・散布機器や関連技術を数多く確認することができました。

中でも特に注目したのは、機械の「大型化・複合化」の傾向です。たとえば、展示されていた「407 ETR」の運用車両は、一台で除雪・散布・標識警告を同時に

行える設計となっており、前面には可変型の多連結ブレード、側面には液剤・固形剤の併用散布装置が搭載されていました。さらに、作業履歴をリアルタイムで記録するGPSやIoT (Internet of Things) センサーが内蔵され、すべての作業ログが自動的に管理センターへ送信される仕組みとなっています。

このような一台多機能・高効率化された装備は、道路ネットワークが広く、労働力の確保が難しい北米地域における合理化の表れであり、同時に、安全性とスピードを両立する運用思想が色濃く反映されています。



2025 APWA 展示会場にて



大型除雪・散布複合車両

日本とは契約方式も異なり、北米では多くの自治体が「性能ベース契約」を採用していて、成果物としての“道路の状態”に対して評価・報酬が決まる形だそうです。このため、機材や人員の運用方法は請負業者に一任されるケースが多く、日本と比較して自由度と責任のバランスが異なっているとのことでした。

また、除雪業務が「市民サービスの一環」として強く認識されており、専用アプリやSNSによる情報発信、住民からのフィードバック機能も整備されています。運用情報の透明性や、住民とのコミュニケーションを重視している点は、日本の「業務は業務、情報は必要最小限に」という発想とは大きく異なります。

機材面・制度面・文化面いずれにおいても、日本と北米では運用に対する思想が大きく異なっていることを実感しました。もちろんそのまま国内に適用できるわけではありませんが、地域事情を踏まえたうえで、どこに工夫の余地があるかを見極める上では、大変有意義な視察でありました。

今回の渡航中、ロサンゼルス滞在時に公共交通機関「Metro（メトロ）」を利用し、チャイナタウン駅で下車後、徒歩でドジャースタジアムまで向かいました。

ロサンゼルスは「自動車社会」の印象が強い都市で、UBERが非常に便利な交通手段ではありますが鉄道やバスなど公共交通の整備も進んでおり、TAPカードによるキャッシュレス乗車や路線案内の整備状況から、観光・市民移動における利便性の向上が図られている印象を受けました。

チャイナタウンからスタジアムまでの徒歩移動では、急な坂道や歩道の整備状況に現地特有の都市構造を感じながら、実際の交通環境を肌で体験できました。車社会であるがゆえの「徒歩でのアクセスの難しさ」や、「都市のスケール感」といった点は、現場体験として貴重な知見になりました。

ドジャースタジアムでは試合は開催されていませんでしたが、併設のチームストアを訪れ、グッズの豊富さや施設の造りから、現地の野球文化とファン層の広さを感じ取ることができました。イベント開催日でなくともスタジアムが観光資源として機能している点は、地域活性化や施設運営の参考となる部分です。

また、視察日程の合間に、グランドラピッツからレンタカーでカナダ国境を越え、ナイアガラの滝（カナダ側）まで足を延ばしました。初めての左ハンドル・右側通行での運転を経験し、慣れない操作に最初は戸



ドジャースタジアムチームストア

惑いもありましたが、アメリカの道路設計や標識、車線の幅広さ、交通の流れなどを、運転者として実地で体感することができたのは貴重な体験でした。アメリカからカナダへは橋を通じて入国し、入出国審査を受ける形での国境越えを経験。左ハンドル・右側通行に加え、国際間の自動車移動を体験する貴重な機会となりました。

カナダ側から望むナイアガラの滝は、視野が広く、滝の全景を一望できることから「より迫力がある」とされ、多くの観光客が訪れる人気スポットとなっています。実際に現地を訪れてみると、その存在感は圧倒的で思わず声が漏れました。

なお、ナイアガラの滝はその知名度やスケールから世界遺産であると誤解されることが多いものの、実はユネスコの世界遺産には登録されていません。これは、周辺の大規模な観光開発や水量の人工調整といった点が、自然遺産としての基準に適合しづらいことが背景とされています。

今回の視察を通じて、北米における冬季道路管理技術の実情や、機械の大型化・複合化、さらにはIoTセンサーを活用したデータ運用事例など、国内とは異なるアプローチを直接目にすることができました。また、実際の交通環境や都市インフラを現地で体感し、机上では得られない知見や気づきを数多く得ることができました。

視察の合間には、ナイアガラの滝やロサンゼルス市内の交通インフラ・都市空間にも触れ、観光地における交通整備や都市デザインのあり方についても考える貴重な機会となりました。

このような有意義な視察に参加する機会をいただいたことに対し、派遣をご決定いただいた会社・関係各位の皆様へ心より感謝申し上げます。今回得た知見を今後の業務に活かし、社内外への還元につなげてまいります。



ナイアガラの滝（カナダ側）

環会 第32回ゴルフコンペおよび2025年 定時総会 開催報告

環会事務局 土 屋 仁

4月18日(金)、恒例となっております環会主催の「第32回ゴルフコンペ」および「定時総会」が開催されました。

当日は午前8時28分より、蔵王カントリークラブにて第32回ゴルフコンペが開催され、環会会員企業29社から33名、ならびにJGDグループ社員7名の総勢40名が参加されました。数日前まで天候の心配がありましたが、当日は快晴に恵まれ、まさにゴルフにうってつけの気候のなか、プレーが始まりました。

OUTコース・INコースにそれぞれ5組ずつ分かれ、両コース同時スタート。前半からパープレーが続出し、実力者たちの熱戦が繰り広げられました。昼食を挟んだ後半も順位がめまぐるしく変動し、移動カートに表示されるリアルタイムの順位表が、参加者の気持ちを

一層高める場面も。ハンディキャップ制によるネットスコア方式で、終盤まで緊張感のある展開が続きました。夕方の表彰式を楽しみにしつつ、参加者たちはそれぞれ清々しい表情でコースを後にしました。

定時総会は同日18時30分より、山形市「パレスグランデール」にて開催され、会員企業55社から66名、JGDグループ社員16名の計82名が出席されました。

冒頭では、環会 佐藤武幸会長（有限会社旭屋設備代表取締役）ならびに、母体会社を代表して桂木聖彦社長より挨拶が行われました。その後、事務局より令和6年度の事業報告および令和7年度の事業計画について報告があり、慎重な審議のうえ、満場一致で承認されました。なお、令和7年3月31日現在で、環会の会員企業数は102社に達しています。



第32回『環会』ゴルフコンペ 蔵王カントリークラブ R7.4.18

続く懇談会では、佐藤会長のご挨拶に続き、JGDグループ 桂木宣均会長のご発声による乾杯が行われ、歓談が始まりました。

宴が佳境を迎える頃、注目のゴルフコンペ表彰式が開催されました。司会進行を務めたのは桂木宣均会長。各賞の発表とともに、豪華賞品の披露が続き、会場は一段と賑わいを増しました。今回、見事優勝を果たしたのは、株式会社北東地質ボーリングの伊藤規子社長。初優勝の荣誉に、場内から大きな祝福の拍手が贈られ

ました。

懇談会の締めくくりとして、環会 高橋卓幹事（有限会社高橋さく井工業 代表取締役）よりご挨拶と中締めが行われ、盛況のうちに閉会となりました。

年度初めのご多忙のなかにもかかわらず、多くの会員企業の皆様にご参加いただき、深く感謝申し上げます。今後とも、環会の活動に引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



JGD桂木宣均会長



JGD桂木聖彦社長



佐藤武幸会長



高橋卓幹事



全体写真

All Energy 2025 ~ Exhibition & Conference ~ 視察報告

技術本部 設計部 伊 藤 司

5月14日(水)～15日(木)、イギリスグラスゴーのScottish Event Campus (SECセンター) にて開催されたAll Energy 2025 ~ Exhibition & Conference ~ に、桂木会長・山谷企画開発部部長に同行して視察して参りました。

今回の展示会では、250に及ぶ企業や団体の展示ブースがありましたが、およそ7～8割が風力発電や太陽光発電、海洋エネルギーや地熱等、エネルギー関連及びエネルギーミックスについての展示となっていました。そのほかの展示としては、「BOSCH」や「BAXI」「OCS」等の住宅向けや、企業向けのヒートポンプユニット関連、蓄熱システムや水素・燃料電池、大型のボイラ等が展示されておりました。

出展されている製品のうち、イギリスで発展している熱供給ネットワークを利用した温水を供給するヒートポンプシステムが普及してきており、熱エネルギー

に対する理解が広がっていることが分かります。イギリスは北緯50度から60度と山形の北緯38度と比べ北に位置しており、ロンドンの8月の平均最高気温は23℃と低いため冷熱の利用はほとんど無く、温熱のみを利用したヒートポンプが基本となっておりました。

特に興味深かったのは、地質工学・環境工学を担ってきたイギリスの企業が統合してできた「igne」という企業です。この企業はそれぞれの企業の培ってきた合計経験年数が350年を超えるというボーリング会社とのことで、クローズドループを使用した地中熱ヒートポンプシステムの設計や施工、オープンループ井戸の掘削等当社と近い企業であると感じました。当社の持つ技術・現在取り組んでいる事業は、環境を持続させていくためには、必要な技術・企業であると改めて感じる事ができました。

今回の出張中ではイギリス・グラスゴー及びエディ



All Energy 2025 展示会場にて

ンバラ・ロンドンに立ち寄り視察する事ができました。

グラスゴーにはカトリック教会として、12世紀以前に建設されたグラスゴー大聖堂があり、昔の建物や街並みが残っており石造りの建造物で埋め尽くされた荘厳さはとても素晴らしいものでした。グラスゴーには、美術館や博物館が多数あり、その中でもスコットランドで最も訪問客が多いといわれるケルビングローブ美術館・博物館や歴史的な車や鉄道などを展示するリバーサイド博物館を見学しました。どちらも無料で見学することができスコットランドの文化・歴史について学ぶことができました。

エディンバラはスコットランドの首都であり、鉄道を挟んで南側が旧市街とよばれ、1995年には町全体がユネスコ世界遺産に指定されるなど、中世の古い街並みを残した都市となっておりました。鉄道を挟んで北側が新市街と呼ばれ、新しい文化を取り入れた市街地となっており、新旧が融合した景色は素晴らしいものでした。エディンバラ城や聖ジャイルズ大聖堂等歴史的な建造物が点在し、石畳の道や中世の建物を歩くとまるでタイムスリップしたかのような趣がありました。

ロンドンはいギリスの首都であり、言わずと知れた

世界的に有名な国際都市であり、観光客が多くいろいろな文化が融合した都市となっておりました。レンタルサイクルを借り、ロンドン市内を回ったのですが、各所にレンタルサイクルのスポットが配置され、どこでも乗り降りができるようになっておりました。また、二階建バスが街中を循環しており観光客、ビジネスマンの足となっているようで、環境を考えた街づくりとなっているようでした。道路は車両と自転車道が完全に分離した道路も多く歩行者、自転車、車両の安全も考慮された街となっていました。ロンドンでは、大英博物館やナショナルギャラリーなど博物館・美術館を見学させていただき、ロゼッタストーンやゴッホのひまわりなど歴史的にも価値のある展示物を間近で見ることができ感動しました。

今回の出張に参加させていただいた会長・社長はじめ、社内の皆様に厚く御礼申し上げます。最後になりますが、海外出張という形で展示会の視察をさせて頂くと共に様々な知見を得る機会を頂き、重ねて深く感謝申し上げます。



グラスゴー大聖堂



エディンバラの街並み



ロンドン タワーブリッジ



ロンドン ビックベン

NEDO技術検討委員会

企画開発部 黒 沼 覚

現在、JGDが進めているNEDOの助成事業「再生可能エネルギー熱の面的利用システム構築に向けた技術開発」において、5月14日(水)にNEDO川崎本部で技術検討委員会が開催され、2024年度の成果について報告して参りました。

技術検討委員会にはJGDから桂木社長、加藤補佐、黒沼の3名が、共同研究者であるゼネラルヒートポンプ工業から駒庭副主幹1名の合計4名が参加しました。評価委員の先生4名に15分間説明を聞いて頂き、その後15分間質疑応答する形でおこなわれました。この技術検討委員会はNEDO主催の会議で、時間厳守が求められる会議です。事前の練習では余計な説明を加えないよう念入りに説明内容を準備していたのですが、緊張のせいで本番では持ち時間を少しオーバーしてしまいました。

その後は、最も緊張する質疑応答の時間です。委員の先生方からは「季節間蓄熱のような大容量であれば帯水層蓄熱の方がメリットは大きい、昼夜間での融

通のような容量であれば、小規模な蓄熱槽の方がメリットの出る場合もあるのでは?」、「ZEH-MやZEBとしての評価にあたっては建物単位での個別評価にこだわらず、1つの面的コミュニティとして評価する方法はどうか?」など貴重な意見・助言を頂きました。返答に窮するような難しい質問は出ずホッと胸をなでおろしたところです。質疑応答の最後には、検討委員会の委員長である名古屋大学名誉教授の奥宮先生から「非常に挑戦的で難しいテーマですが、帯水層蓄熱の有効性を示す成果となることを期待します」とのお言葉も頂きました。

2024年度は熱源井戸の掘削工事まで実施しましたが、今年度は第一清新寮の解体、ZEH-M建築、帯水層蓄熱システム構築など本格的に実証施設の工事が始まります。今後もJGDグループ社員皆様のご理解とご協力を頂きながら、NEDO助成事業を進めて参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

ヒートパイプ融雪工法協会第7回通常総会報告

営業本部 営業部 菅 野 浩 平

5月20日(火)、ANAクラウンプラザホテル新潟にて開催された「ヒートパイプ融雪工法協会第7回通常総会」に、桂木社長、菅野の2名で出席してまいりました。

総会には会員企業9社から19名出席し、池野会長が議長となり、第1号議案から第6号議案を審議し事業報告、収支決算等全議案につき承認されております。この度の総会にて任期途中であるが池野会長が退任し、新たに(株)興和の社長である齋藤浩之氏が会長に就任しました。また、ヒートパイプ製造メーカーの(株)フジクラが退会し、融雪装置製造メーカーの(株)ユーテックが入会しました。ヒートパイプの製造は(株)ユーテックに引き継がれるとのことでした。

ヒートパイプ融雪工法協会の事業計画では、総会運営及び理事会の運営、各地区持ち回りによる技術講習会・普及セミナーの開催、HPの更新、EE東北や雪みらいへの出展等があり、今年度は技術講習会・普及セミナーの開催地が山形の担当になっておりますので各部署からの協力をお願いしたいと思います。

ヒートパイプ工法協会の会員数は現在9社であり、桂木社長は理事を務めています。ヒートパイプの詳しい内容は協会HPをご覧ください。<https://www.hpi-sma.com>

参考まで現時点でのヒートパイプの施工実績は、施工件数299件、施工面積約27000m²となっています。

令和7年度 日本地下水開発グループ親睦会 スポーツ大会及び新入会員歓迎会

親睦会 金子 幹

5月24日(土)10:00よりスポーツ大会、そして18:00より新入会員歓迎会が開催されました。今年度は土曜日開催という事もあり、スポーツ大会には159名、新入会員歓迎会には162名と多数の会員に出席頂き、14名(新卒社員10名、中途入社社員4名)の新しい仲間を迎え入れ、盛大に会を催すことができました。

スポーツ大会は昨年に引き続き山形県総合運動公園メインアリーナにおいて開催されました。午前中から1日通しての開催は平成30年以来7年振りということで、久々の通日開催ができたことに感謝申し上げます。

今年度は昨年と同様にスリッパ卓球、そして新競技として「ボッチャ」を採用させて頂きました。ボッチャは、イタリア発祥の伝統的なパラリンピック競技であり、年齢や身体的条件に関わらず誰でも参加できるため、誰もが気軽に楽しめるスポーツです。戦略性と技術が求められ、プレイヤー同士の交流やチームワークも深まります。競技を通じて、障害者の社会参加や理解促進にも寄与しています。競技中は1投ごとに逆転の可能性があるので各チーム応援にも熱が入り、楽しく盛り上がりを見せたこともあって、初めて参加した新入会員の皆さんも競技を通して先輩社員との親睦を深められたと感じております。当日は通日の運動ということで各自準備運動やストレッチを入念にして頂いたこともあり怪我の報告もなく無事に終わられました。

各チームの主将、副主将はじめ、会場設営、撤収の補助をして頂いた皆様には、多大なるご協力を賜りましたことを親睦会より深く感謝申し上げます。

新入会員歓迎会はパレスグランデールにおいて開催されました。スポーツ大会の結果発表と表彰式を行った後、桂木社長より乾杯のご発声を頂き、和やかに宴会がスタートしました。

新入会員紹介では毎年恒例となっております、桂木会長と指導員や関係する先輩社員との掛け合いやスピーチにより会場がより一層盛り上がりしました。その後の新卒社員による余興では、歌唱、箱の中身は何だろな、台湾のラジオ体操(Lucy体操)を披露してもらいました。甘い歌声、先輩社員を回答者にしたクイズ、練習量の多さが窺えるキレのある動きで会場を盛大に盛り上げてくれました。準備から本番まで大変お疲れ様でした。その後、じゃんけん大会で再度盛り上がりを見せた後、日本地下水開発株式会社 工事部の工藤智弥工事長より中締め挨拶を頂き、盛況のうちに会を締めることができました。

スポーツ大会、新入会員歓迎会を通して会員の皆様の多くの笑顔を目にすることができ、JGDグループの団結力を再認識できたと思っております。

最後になりますが、円滑な進行へのご協力や本会を大いに盛り上げて下さいました親睦会会員の皆様には改めて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



スポーツ大会の様子



新入会員歓迎会の様子

2025NEW環境展／2025地球温暖化防止展に出展

企画開発部 鳥越 雄太郎

5月28日(水)～30日(金)、東京ビッグサイト(東京都江東区)にて開催された「2025NEW環境展／2025地球温暖化防止展」に出展して参りました。当社からは、桂木社長、企画開発部：山谷部長、黒沼次長、加藤補佐、鳥越、営業部：斎藤次長、菅原主任の計7名が参加いたしました。この展示会の目的は、環境汚染問題や地球温暖化問題等に対応する様々な環境技術・サービスを一堂に展示情報発信する事により環境保全への啓発を行い、国民生活の安定と環境関連産業を発展することでした。当社ブースの来訪者には、高効率帯水層蓄熱冷暖房システムや無散水融雪システムのパンフレットを入れたJGDロゴ入りトートバッグを配布して高効率帯水層蓄熱冷暖房システムを主とした説明を行いました。

公式発表では、展示会の来場者数は3日間で合計96192名(1日目：28482名、2日目：38791名、3日目：28919名)とのことでした。そのうち当社ブースには3日間で183名に来訪いただき、116名の方から名刺を頂戴いたしました。来訪者は、地中熱について詳しく知らず通りがかりに立ち寄った方、地中熱全般に関心があり訪れた方、社名に含まれる“地下水”の文字に興味を持ち訪れた方など様々でした。また、デジタルサイネージを見て立ち止まり、その後興味をもって展示ブース内に入る方も多くいたため、展示

ブースのレイアウトは重要だと感じました。

私は展示会には今回が初参加であり、とくに1日目はぎこちない説明となることが多く来訪者に理解してもらえているか不安でしたが、先輩社員の説明の仕方も参考にしながら徐々に説明の仕方を工夫することで来訪者の反応も良くなっていったように感じました。そして高効率帯水層冷暖房システムの説明をすると驚きや感心の反応をする来訪者もあり、同システムの魅力を共感してもらえた瞬間が非常にうれしく思いました。他方、ときどき回答に困る質問をいただくこともありしたので、知識や経験を積み重ねて柔軟に答えられるようになりたいと感じました。今後も、展示会から何かしらのビジネスに繋がるような情報を得られるように工夫して紹介をしていきたいと考えております。



JGDブースの様子



展示会会場の様子

2025建設リサイクル技術発表会・技術展示会へ出展

企画開発部 鳥越 雄太郎

6月4日(水)～5日(木)、夢メッセみやぎ(宮城県仙台市)にて開催された「2025建設リサイクル技術発表会・技術展示会」に出展して参りました(EЕ東北'25と同時開催、EЕ: Engineering Exhibition)。今回は関連会社の日本水資源開発株式会社との共同出展でした。当社からは、桂木社長、企画開発部:黒沼次長、加藤補佐、鳥越および日本水資源開発株式会社からは営業部:石野次長と資材部:佐藤係の計6名が参加いたしました。なお、当展示会の目的は建設リサイクルの更なる普及と促進にむけて、関係者(工事発注者、建設工事施工者等)の意識啓発と建設リサイクルの推進に有用な技術情報等の周知・伝達、技術開発の促進及び一般社会に向けての建設リサイクル活動の取り組み等をPRすることでした。そのため、当社が無散水融雪施設で採用しているリサイクル可能なPE-RT製樹脂放熱管を実物展示・紹介したほか、無散水融雪施設や帯水層蓄熱冷暖房システムの紹介などを行いました。

公式発表によると、来場者数(速報値)は2日間で合計18,700名(1日目:10,200名、2日目:8,500名)とのことでした。そのうち当社ブースには2日間で141名に来訪いただき、95名の方から名刺を頂戴いたしました。JGDブース来訪者のなかには、展示したPE-RT製樹脂放熱管やVP横スリット型ストレー

ナーが目に留まり説明を求める方も見受けられました。また来場者は行政機関や学生が多く、JGDブースにも行政の方に度々訪問いただき無散水融雪システムの説明をいたしました。

今回出展した2025建設リサイクル技術発表会・技術展示会は、EЕ東北'25のメイン会場である本館ではなく、近接する西館が展示会場であったため、当展示会が開催されていることを知らない方も多かったためか本館よりも来場者が少なかったように感じました。今後も展示会前には、当社HPで展示会出展のお知らせを発信することで、よりたくさんの方にJGDグループを認知してもらえよう展示会等のイベント対応に努めてまいります。



展示ブースの様子



オープニングセレモニーの様子

国立大学法人 山形大学工学部 「キャリア形成論」での講演について

総務本部 総務部 長 岡 夏 輝

6月5日(木)16:20~17:50、山形大学工学部の2年生~4年生を対象とした授業カリキュラム「キャリア形成論」において、設計部・福井部長、JESC・會澤主査、長岡の3名が外部講師を務めました。

当日講義に参加してくれた学生は390名。長岡からJGDの事業紹介、福井部長と會澤主査が仕事のやりがい等について60分ほどプレゼンが行われ、その後学生同士のグループワークや質疑応答に対応いたしました。

福井部長、會澤主査、長岡ともに山形大学のOBですが、将来、本講義を聞いてくれた学生が一人でもJGDグループの仲間になってくれることを期待しています。

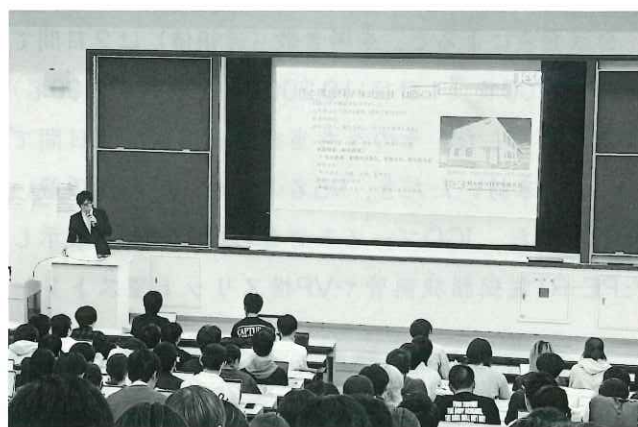
学生の皆さんからいただいた感想の一部を紹介いたします。



長岡係による事業紹介



福井部長のプレゼン



會澤主査のプレゼン

Aさん

日本地下水開発株式会社の長岡様、福井様の講演を通じて、雪国ならではの課題に向き合い、地域社会に貢献している企業の取り組みを知ることができ、大変興味深かったです。

特に無散水消雪システムや地下水熱を活用したエネ

ルギー事業は、持続可能な社会の実現に直結しており、身近な自然資源を有効活用する点が印象に残りました。

また、設計部での業務内容ややりがいについての話からは、日々の丁寧な仕事が目に見える形で社会に役立つという達成感を感じました。

日本環境科学株式会社の會澤様のお話からは、自分

の適性を知ることや責任を果たすことの大切さを学びました。アルバイトや学生時代の経験が社会人としての準備になるという言葉も心に残りました。

どの講師の方も、日々の仕事の中で人との関わりや伝える力を大切にしており、私自身もこれからの行動に活かしたいと感じました。

Bさん

日本環境科学株式会社の會澤様のお話で印象に残ったことは「社会人になって大切なのはなるべく立ち止まらないようにすること」という言葉でした。

具体的には、就職後場合によっては様々な部署に移動したり、部下から上司へ立場が変化したりする中で、自分に無理のないペースで着実に歩みを進めることがモチベーションを保つという面でも大切だと思いました。

また、今回お話に合ったアルバイトを通してコミュニケーション力を培う、ということを今後の進路選択にも活かしていきたいと思います。

現在アルバイトを1つ行っていますが、その他のアルバイトに挑戦したいという考えが大きくなりました。

コミュニケーション力もそうですが、自分の適性を知り就職前の職業体験としても、今行っている職種とは異なるアルバイトをして就職に活かしたいです。

Cさん

株式会社日本地下水開発の長岡様・福井様、日本環境科学株式会社の會澤様のお話で印象に残ったキーワードは「地域密着」と「人間力」でした。

特に長岡様が、文系出身でありながらも融雪技術について図を使って丁寧に説明されていた姿勢に驚き、分野を問わず学び続ける姿勢の大切さを感じました。

福井様が話された「挨拶の大切さ」や「相手の立場に立つ」という考え方は、社会に出てからの人間関係の基盤になると思いました。

會澤様の環境問題への真摯な向き合い方も印象的で、自分も将来、専門知識だけでなく、地域や人とのつながりを意識して行動できる社会人を目指したいと感じました。

Dさん

日本地下水開発株式会社の長岡様、福井様、日本環境科学株式会社の會澤様のお話で印象に残ったことは日本地下水開発株式会社についてとキャリアについてのお話でした。

具体的には御社が行っている事業や技術を使い行っているかについて詳しく知ることができました。

長岡様のお話から個人的にも御社に興味を持ちました。

福井様が話してくださった挨拶や伝える力の大切さは自分の就活などの参考にしたいと感じました。

會澤様が話してくださったアルバイトにより培えるコミュニケーション力については今後も飲食店のバイトを頑張っていこうと思えることでした。

また、自分なりのモチベーションの持ち方などについても参考になりました。

今回お話にあった長岡様からの日本地下水開発株式会社についての事、福井様からのキャリアについて就活で大切にしたい事や會澤様からの就職後に大切にしたい事を、今後の進路選択に活かしていきたいと考えています。

Eさん

福井様のお話を聞いて印象に残ったことは仕事に向けた姿勢の在り方です。

なぜなら将来SEを目指す自分としては仕事に一種の楽しみのようなものを求めています、福井様の話を聞いて、こんなにも仕事に責任感を持ち、その使命を果たしている姿勢を見てこんな働き方もあるのかと驚きました。

父も福井様のような人だったので、仕事に対して強い責任感を感じていたのかなとふと感じました。

今、学生である身なため仕事は憧れのようなものを感じていますが、働くということは社会に貢献し、その役割を果たさなければいけないということを今一度感じました。

楽しそうだから選ぶのではなく、どのような形で社会に貢献していきたいのかを考え直そうと思いました。

Fさん

日本地下水開発株式会社の講義で印象に残ったのは、主に會澤公平様のお話でした。

特に、社会人としての生き方や大学時代にやっていて良かったことについての内容に関心を持ちました。

私は高校生の頃、担当の先生から「アルバイトは損しか生まない」と言われたことがあります。

今振り返ると、それは勉強に集中させるための口実だったのかもしれませんが。

しかし、今回の講義を通じて、アルバイトの役割について改めて考えさせられました。

社会経験を積む機会としてのアルバイトや、年上の人との関わり方を学ぶ場としての重要性、そして給料をもらいながら多くのことを学べる点に大いに共感しました。

また、社会人としての生き方についての話では、モチベーションの維持や本音と建前の使い分けといった、今後のキャリアに直接関係する内容が語られ、とても関心を持ちました。

これから社会に出るうえで、今回の講義で得た学びを活かしていきたいと思います。

Gさん

日本地下水開発株式会社の長岡様のお話で印象に残ったのは、祖業である井戸掘りから始まり、現在では水質・地質調査、さらには克雪事業など、地域に根差した多様な地下水関連事業へと発展している点です。

特に、放熱管を埋設することで雪を溶かす克雪道路の取り組みは、持続可能な社会への実践的なアプローチだと感じました。

2050年のカーボンニュートラルを見据え、地域の課題と環境問題を同時に解決しようとする姿勢に感銘を受けました。

また、地元サッカークラブ・モンテディオ山形への出資を通じて、地域活性化にも力を入れている点に、企業の社会的責任の重要性を再認識しました。

私も将来、地域と環境の両面に貢献できるような仕事に関わりたいと感じました。

貴重なお話をありがとうございました。

また、就活時期に合わせたホットな情報をありがとうございました。

Hさん

日本地下水開発株式会社福井様のお話で印象に残ったことは、文章を書く際には誰が読んでもわかるように書くようにしているということでした。

社会に出たら、今まで私が所属していた社会形態と違って責任を求められるようになります。

誰にでも伝わるような文章を書くことは、物事を進めていく上でとても重要になると感じました。

また、あいさつも重要とおっしゃっていました。

当たり前のことではあるけれども、意識的に朝一番に「おはよう」と言えると、相手にとっても好印象になりますし、自分の気持ち的にも良いので一石二鳥であると思います。

また、日本地下水開発株式会社の長岡さんの話で、バックキャスティングを社長は意識しているとおっしゃっていました。

このバックキャスティングという考え方は、逆算する力のことで、将来を具体的にイメージして、今できることを明確にやるということは武器になると感じました。

Iさん

日本地下水開発株式会社の福井様のお話で印象に残ったことは業務を進めるうえで大切にしていることです。今回の講義では、挨拶、コミュニケーション、相手へ伝える力がありました。

特にこの中でも挨拶は業務を進めるうえで大切だと思っていなかったのがこれからは大切にしようと思いました。

また、私も相手に伝える力はとても大切だと思うので、これから力を付けられるように努力していきたいと思います。

今回の講義では、普段聞くことのない消融雪施設の話聞くことができました。

この業務を完遂させるまでにたくさんの苦労がある分完遂したときの充実感と達成感を感じられることは

とても共感できたので、私も仕事のやりがいを見つきたいと思いました。

また、仕事をするうえで周りの人から感謝を伝えられると努力が報われると思えるのももっともっと頑張りたいと思います。

Jさん

日本地下水開発株式会社の長岡夏輝様、福井秀樹様、會澤公平様のお話で印象に残ったことは、社会人は「責任」を果たした後に「結果としての自由」がついてくる、という言葉が印象に残りました。

なぜなら自由は最初からあるものではなく、自分の役割を全うして初めて得られるものだ気づけたからです。

また、「今ある強み」に目を向け、それをさらに伸ばす視点も大切だと感じました。

自分に足りない部分ばかりに目を向けるのではなく、既に持っている力を活かすことで、より前向きにキャリアを築けると思います。

これからは、与えられた責任にしっかり応えつつ、自分の強みを見極めて成長につなげ、主体的にキャリアを形成していきたいです。

Kさん

日本地下水開発株式会社の長岡夏輝様と福井秀樹様のお話で印象に残ったことは、地下水を利用した環境負荷の低い技術です。具体的には、長岡様が紹介された「無散水消雪システム」が、地下水の安定した温度を利用して雪を溶かす点に感銘を受けました。

自然エネルギーを有効活用し、環境に配慮した技術だと感じました。

日本環境科学株式会社の會澤公平様のお話では、「オールラウンダーではなくスペシャリストになることが大事」という言葉が心に残りました。

これからの社会では、特定分野での深い専門性が求められると実感しました。

今回のお話を今後の進路選択に活かしていきたいと考えています。

Lさん

今回の日本地下水開発株式会社様のお話で1番印象に残ったのは「消融雪施設」です。

とくに消雪施設(散水方式)は米沢市でもよく見られるものであり、どういう物なのだろうと気になっていたもので、詳しい機能や仕組みを知ることが出来てよかったです。

またその場所での特性に沿って色んな融雪方法を知ることにも出来ました。

雪の多い米沢では消融雪施設は必要不可欠なものだと思います。

消融雪施設の有無では事故の発生率や雪害はかなり抑えられると感じ、目に見えて人の役に立つことが出来るものだと感じました。

自分も人の役に立つ仕事や人のためになる仕事をしたいと考えているので、非常に有意義なお話をお聞きすることが出来ました。

また、日本環境科学株式会社の會澤様のお話では、アルバイトでコミュニケーション能力を磨くことが出来るお聞きし、お金を稼ぐこと以外に目的を持って働きたいと感じました。

Mさん

日本地下水開発株式会社の長岡様、福井様のお話で印象に残ったことは社名から推察できることより多くのことについて関わっているのだと感じたことでした。

なぜなら私は日本地下水開発株式会社という社名から地下水にのみ関わっておりあまり人の目に当たらない、表面的でないものだと思っていましたが、消雪機のお話を聞いて自分の今住んでいる場所に直結し、地下水に成り得る前の水にも関わっているものだと思っていたからです。

きっと自分の就職したい会社や職種も自分の予想以上や予想に反したことに関わっているのではないかと感じられ、今回お話に合ったことを参考にし、自分の目標に沿える職業選択ができるように、自分の目的とした職業がどこまでの範囲を担っているかを調べ、今後の進路選択に活かしていきたいと考えています。

2025年 ニューフェイス!

～ 日本地下水開発グループ親睦会 新入会員のご紹介 ～

2025年5月24日現在



ちん ゆうかい
陳 宥愷
2024. 12. 1 入社

- A. 出身地
台湾 高雄市
- B. 配 属
日本地下水開発 事業本部 環境調査部
- C. 趣 味
仏像鑑賞、音楽鑑賞
- D. 年 齢
27歳

E. 抱 負

JGDグループの一員として働けることに身が引き締まる思いです。社会人としての責任を自覚し、日々の業務に真摯に取り組みたいと考えております。分からないことは素直に学び、積極的に行動する姿勢を大切にしながら、少しずつでも成長していけるよう努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



とりこし ゆう たろう
鳥越雄太郎
2025. 4. 1 入社

- A. 出身地
青森県上北郡六戸町
- B. 配 属
日本地下水開発 営業本部 企画開発部
- C. 趣 味
映画鑑賞、ゲーム
- D. 年 齢
25歳

E. 抱 負

JGDグループの一員として、皆様と働けることを大変嬉しく思います。これからはいち早く会社に貢献できるように、仕事を教わるのではなく積極的に覚える姿勢で頑張ります。また、新しい環境で成長できることを楽しみにしております。ご指導いただきますようよろしくお願いいたします。



や た め り お
矢田目りお
2025. 4. 1 入社

- A. 出身地
山形県山形市
- B. 配 属
日本地下水開発 技術本部 設計部
- C. 趣 味
ラーメンを食べに行く、温泉に行く
- D. 年 齢
23歳

E. 抱 負

このたびはJGDグループの一員として働けることを心より嬉しく思います。探究心を大切にし、日々学びを重ねながら皆様のお力になれるよう精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



よ こ た か い
横田 海以
2025. 4. 1 入社

- A. 出身地
山形県上山市
- B. 配 属
日本地下水開発 事業本部 工事部
- C. 趣 味
サッカー、バイク、釣り
- D. 年 齢
23歳

E. 抱 負

JGDグループの一員として皆様と共に働けることを嬉しく思います。社会人としての責任を自覚し、誠実な姿勢で業務に励みます。先輩方から学びながら成長し、会社の発展に貢献できるよう努めます。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



かい や がく
海谷 岳
2025. 4. 1 入社

- A. 出身地
山形県山形市
- B. 配 属
日本環境科学 事業部 調査グループ
- C. 趣 味
野球観戦、ネット麻雀
- D. 年 齢
22歳

E. 抱 負

このたび、日本地下水開発グループの一員として勤務することとなり、大変光栄に存じます。一日も早く業務を習得し、会社に貢献できるよう誠心誠意努めてまいります。常に謙虚な姿勢を忘れず、責任感を持って職務に取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



な ら がく や と
奈良崎隼士
2025. 4. 1 入社

- A. 出身地
山形県山形市
- B. 配 属
日本水資源開発 資材部
- C. 趣 味
カラオケ
- D. 年 齢
20歳

E. 抱 負

笑顔と素直な姿勢を大切にしながら、JGDグループの一員として周囲と協力し、少しでも皆さんの役に立てるよう努めます。日々学び、成長する努力を惜しまず取り組みます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



えび なげんせい
海老名兼成
2025. 4. 1入社

- A. 出身地
山形県山形市
- B. 配 属
日本水資源開発 製造部
- C. 趣 味
映画鑑賞
- D. 年 齢
19歳

E. 抱 負

JGDグループの一員として皆様と働くことを大変うれしく思います。まだまだ分からないことや不慣れなことが多く、ご迷惑をおかけするかとありますが、諸先輩方から多くのことを学び、一日でも早く戦力になれるよう日々努力してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



あべ かいり
阿部 海吏
2025. 4. 1入社

- A. 出身地
山形県山形市
- B. 配 属
日本環境科学 事業部 調査グループ
- C. 趣 味
音楽鑑賞
- D. 年 齢
18歳

E. 抱 負

JGDグループの一員として皆様と共に働くことを嬉しく思います。私自身、初めてのことでばかりで分からないことが多いですが、一日でも早く皆様のお役に立てるように努力いたします。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



たかはし こうが
高橋 洸翔
2025. 4. 1入社

- A. 出身地
山形県山辺町
- B. 配 属
日本地下水開発 事業本部 工事部
- C. 趣 味
サッカー、釣り、映画鑑賞
- D. 年 齢
18歳

E. 抱 負

この度はJGDグループの一員として皆様とともに働くことを心より嬉しく思います。初めての経験ばかりでおぼつかない部分はありますが、日々スキルアップを図り、一日でも早く戦力になれるよう努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



かるべ こうせい
軽部 恒靖
2025. 4. 1入社

- A. 出身地
山形県寒河江市
- B. 配 属
日本地下水開発 事業本部 資源開発部
- C. 趣 味
サッカー
- D. 年 齢
18歳

E. 抱 負

JGDグループの一員として皆様とともに働くことを嬉しく思います。まだ初めてのことでばかりで不安なことがありますが、先輩方に積極的に質問をして少しずつ覚えていきたいと思っています。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



う こと
宇小 徹也
2024. 9. 1入社

- A. 出身地
石川県鳳珠郡能登町
- B. 配 属
日本地下水開発 北陸営業所
- C. 趣 味
ゲーム、音楽、スポーツ観戦
- D. 年 齢
41歳

E. 抱 負

JGDグループに迎え入れていただきありがとうございます。前職は石川県庁で土木技術職をしていました。同じ建設業ではありますが、受注者側の仕事は未経験なためご指導いただければ幸いです。発注者側の視点などこちらから助言できることもあるかと思うので、お互いが高め合えるよう頑張っていきたいです。



うじい え
氏家 剛
2025. 1. 1入社

- A. 出身地
山形県山形市
- B. 配 属
日本地下水開発 事業本部 工事部
- C. 趣 味
野球、ゴルフ、釣り、スキー
- D. 年 齢
43歳

E. 抱 負

前職では、都市ガス、配水管の本管工事及び民間の宅地内のガス配管、施工管理の仕事に23年間携わってきました。これまで培ってきた技術をJGDでも存分に発揮し、会社に貢献したいと思っています。わからない事が多々ありますが、何卒ご指導の程よろしくお願いいたします。



はやし りょうへい
林 遼平
2025. 4. 1入社

- A. 出身地
長野県長野市
- B. 配 属
日本地下水開発 長野営業所
- C. 趣 味
音楽鑑賞
- D. 年 齢
34歳

E. 抱 負

この度はJGDグループの一員として働くことを大変嬉しく思います。前職では公共・民間施設における機械設備工事の営業職に携わってました。これまでに培った知識や経験を活かしつつ、皆様よりスキルやノウハウをご教授いただきながら業務に邁進していければと思います。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



みつら けいすけ
三浦 圭介
2024. 8. 1入社

- A. 出身地
秋田県秋田市
- B. 配 属
日本地下水開発 秋田営業所
- C. 趣 味
野球、ドライブ、旅行
- D. 年 齢
33歳

E. 抱 負

この度はJGDグループの一員として皆様と共に働くことを大変嬉しく思います。前職とは異なる業種になり不安もありますが、日々の業務に努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

ここでがんばっています。

「急がないのが一番の近道」

日本地下水開発(株) 営業本部 企画開発部 加藤 渉

①

昭和53年9月28日生まれ A型
出生地は岩手県水沢市(現 奥州市)。転勤族で、東北地方を中心に1~2年での転居を繰り返していました。累積した居住年数が最も多いのは宮城県仙台市です。

②

東京理科大学理工学部土木工学科卒
平成13年4月入社

③

独身で、岩手県在住の両親の緩衝材として機能しております。

④

30代後半から始めたバイクでのキャンプツーリングです。大まかなエリアを決め、ほぼノープランで放浪しています。

⑤

- a 従来の怠け癖もあり最近では保守的になりがちなので、新しいものを積極的に受け入れる柔軟性を持つよう心がけています。
大変なことでも自分が携わる場合には、面白がって取り組む部分・事柄を見つけ出すようにしています。
- b 2022年から関わらせていただいているタジキスタンでのSATREPS事業が近年では印象深いです。海外への資材輸送手配・日程調整・作業指示など、現場経験の少ない私にとっては国内ですら怪しい内容で、常に

連絡のタイムラグがあり直接会話も出来ない相手に対して進めることは不安しかありませんでしたが、多くの方々のご協力のおかげでJGDが主担当する部分は完了することができました。



中国のコロナ政策で輸送資材が長期停滞するなど序盤から予想外のことが多く、現地入りした際のトラブル頻発の頃には段々面白がりをはじめておりました。焦って現地の面々と険悪な関係になっては元も子もないと開き直って、緩い空気で現地作業員と身振り手振りのコミュニケーションをとったり、時間外には市街地散策したりと、気を張り詰めすぎず取り組み、業務内外で得難い経験をさせていただきました。

- c 自分で見えるのは短所ばかりで、最も悪いのは感情が顔や態度に出してしまうところです。年齢を重ねるごとに悪化しつつあるのを自覚しており、後々反省することが多々あります。
- d 初めから効率的な仕事を目指しすぎると、想定外の事柄への対応力が育たなくなるのではと考えています。第2第3の方法をあらかじめ準備しておくことで、自身の安心にもつながりますし、仕事相手との協議も進めやすくなります。時間や手間が無駄だと切り捨てず、取り組んでももらえればと思います。



■ 質問内容

- ① (生年月日・血液型・出身地)
- ② (出身校と経歴)
- ③ (家族構成と家族でのタイプ)
- ④ (趣味又は特技)
- ⑤ a (今後の抱負・モットーや信念、又は好きな言葉)
- b (当社に入社してから、一番印象に残っている仕事とその理由)
- c (長所と短所)
- d (若手社員へメッセージ)

第64期 太陽光発電状況(4ヶ所合計)

《発電所》

- 矢巾発電所(岩手) ●鶴岡発電所(庄内)
●会津坂下発電所(福島) ●大田発電所(島根)

	総発電量(kWh)	計画総発電量(kWh)
R6. 9月	36,257.6	42,273.9
10月	29,133.7	31,683.5
11月	24,209.0	17,232.6
12月	14,631.3	8,697.6
R7. 1月	22,938.1	14,197.9
2月	28,316.5	24,293.2
3月	41,567.9	43,758.4
4月	34,138.5	52,216.7
5月	48,023.0	58,650.6
6月		
7月		
8月		
合 計	279,215.6	293,004.4